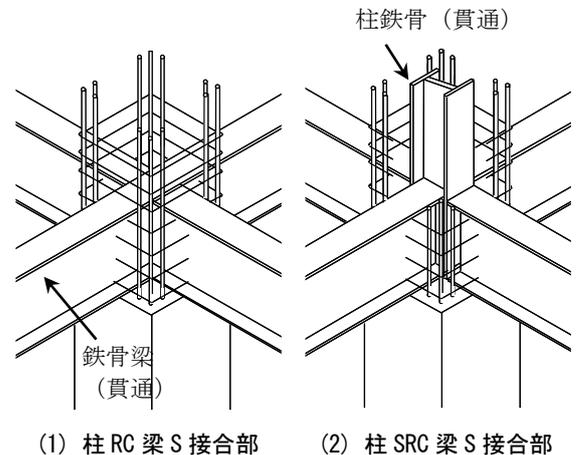


<p>【技術の名称】 竹中柱RC(SRC)梁S接合構法 (改定4)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第07-17号 改4 性能証明発効日：2023年12月25日</p> <p>【取得者】 株式会社竹中工務店</p>
--	---

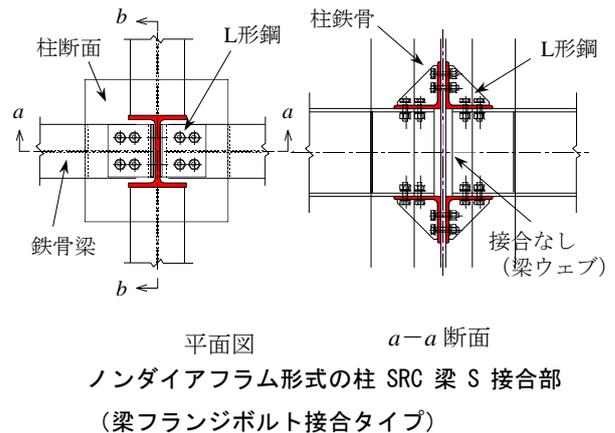
【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート(RC)造柱または鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造柱と鉄骨(S)造梁との接合部を構築する構法である。柱RC梁S接合部では梁鉄骨を貫通させ、柱SRC梁S接合部では梁鉄骨を貫通させるかまたは柱鉄骨を貫通させ、両接合部ともに、周囲に帯筋を配置することを基本としている。前者の柱梁接合部内の帯筋の代わりにはふさぎ板を用いることができ、また柱梁接合部内の梁鉄骨の継手を配置することができる。後者の柱梁接合部内の帯筋にはGBRC性能証明第05-16号を取得した竹中J形フープ・溶接金網フープを用いることができる。また、本構法では、梁端部ピン形式の柱RC梁S接合部および柱SRC梁S接合部も適用範囲に含めている。



【改定の内容】

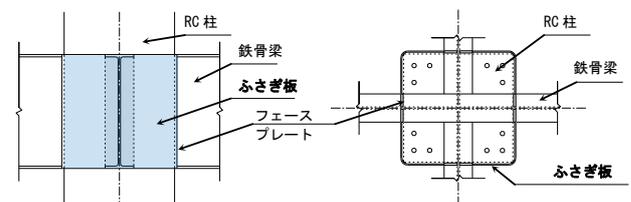
- 新規：GBRC性能証明第07-17号(2007年9月4日)
 改定1：GBRC性能証明第07-17号改(2009年11月10日)
- 柱SRC梁S接合部におけるノンダイアフラム形式の追加
 - 鉄骨ブレース軸芯と柱RC梁S接合部中心が一致しない構法の追加
- 改定2：GBRC性能証明第07-17号改2(2013年10月1日)
- 座屈補剛ブレースを使用した場合の構造特性係数の設定方法の追加
- 改定3：GBRC性能証明第07-17号改3(2017年2月28日)
- 柱RC梁S接合部におけるふさぎ板タイプの追加
- 改定4：GBRC性能証明第07-17号改4(2023年12月25日)
- 柱RC梁S接合部において梁偏心の設計方法を追加
 - 柱RC梁SのT形およびL形接合部の支圧耐力に低減係数を導入



平面図 a-a断面
 ノンダイアフラム形式の柱SRC梁S接合部
 (梁フランジボルト接合タイプ)

【技術開発の趣旨】

本技術は、各種接合形式によるRC柱またはSRC柱とS梁との接合部を選択することによって、工期および施工費用の制約条件の下、設計条件に応じた合理的なRC柱S梁架構およびSRC柱S梁架構を実現することを意図して開発したものである。

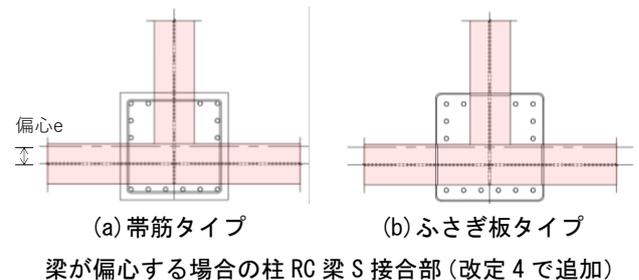


ふさぎ板を用いた柱RC梁S接合部 (改定3で追加)

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「竹中柱RC(SRC)梁S接合構法 設計施工指針」に従って設計・施工された柱RC梁S接合部および柱SRC梁S接合部は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ等の損傷、ならびに短期荷重時に修復性を損なうひび割れ等の損傷を起こさず、同指針で定める終局耐力を有する。



(a)帯筋タイプ (b)ふさぎ板タイプ
 梁が偏心する場合の柱RC梁S接合部 (改定4で追加)

【本技術の問合せ先】